

# 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 24 日

所属	基盤教育機構	職名	准教授	氏名	手嶋 進
研究課題	アンレプレナーシップ概念の地域再生可能エネルギー事業への適用 — ソーシャル、サステナブル、エコロジカル・アントレプレナーシップの概念整理を通して				
研究キーワード	再生可能エネルギー、ソーシャルアントレプレナー	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	12. つくる責任 つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	11. 住み続けられるまちづくりを	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>研究のテーマは、地域コミュニティが主導もしくは便益を享受するような小規模分散型の再生可能エネルギー事業（地域再エネ事業）の事例を、サステナブル・アントレプレナーシップの視点から分析し、事業がどのように普及していくのかを明らかにすることである。地域再エネ事業をアントレプレナーシップ論の観点で分析した研究はわずかしかかないため、本研究は経営学の面で貢献ができると考える。また、詳細な事例研究を取り入れることで、事業者にとっては実務上の参考に、政策立案者にとっては地域分散型の再生可能エネルギー（再エネ）利用を促進する政策案検討の端緒となることを目指している。</p> <p>このテーマ追求のため、今後は地域再エネ事業の事例研究を行う予定である。2021 年度はその準備としてまず、利潤追求以外の使命を持って活動するアントレプレナーシップの整理を行なった。具体的には、社会課題解決を使命とする「ソーシャル・アントレプレナーシップ」、自然環境の悪化防止を目指す「エコプレナーシップ」、経済的価値だけでなく社会・環境価値をも同時に追求する「サステナブル・アントレプレナーシップ」の概念を整理した（以下、「3 種類のアントレプレナーシップ」とする）。ソーシャル・アントレプレナーシップの視点を地域再エネ事業の分析に用いた研究はわずかながら存在するが、3 種類のアントレプレナーシップの概念を適用した研究はほとんどない。3 種類のアントレプレナーシップ概念を、価値創造、アントレプレナー、組織、市場指向性（事業収益のあげ方）、イノベーションの下位概念に分けて、どの概念がより地域再エネ事業の分析に適しているかを考察した。結論として、全体的にはサステナブル・アントレプレナーシップの概念を用いることが最も事業を説明できると評価した。ただし、ソーシャル・アントレプレナーシップの利他性や倫理性などは地域再エネ事業には有益な示唆を与えることもわかった。さらに、エコプレナーシップ研究には事例が多く含まれており、これら事例は今後の事例研究の参考になる。研究の成果を論文として執筆中であり、近日中に CUC Policy Studies Review に投稿する予定である。</p> <p>一方、実践的な研究として、これまで本学において自然エネルギー100%化の活動に取り組んできた。この中で実施した具体的施策は、経済性を担保した脱炭素化の手法として企業等でも参考となる取り組みであるため、対外的な情報発信を積極的に行なった。学長プロジェクト4の活動は書籍として発行し、私もハードウェア施策の章を担当した（共著）。キャンパス建物屋上に設置した太陽光発電設備の検討過程や工夫を、一般社団法人太陽光発電協会の会員向け会報誌『光発電』に寄稿した（共著）。また、地域再エネ事業の普及には人材育成が必要となる。その意味で若い世代の人材を輩出する大学の役割は大きい。そのため、環境科学会の 2021 年会における企画シンポジウムにおいては、コロナ禍での学生による SDGs 関連活動について報告発表（共著）を行なった。</p> <p>それ以外の学会活動としては、Academy of Management の Annual Meeting（2021 年 7 月 29 日から 8 月 5 日）で Social Entrepreneurship や Sustainability 関連のセッションをオンライン聴講した。International Sustainable Development Research Society (ISDRS) の第 27 回コンファレンス（2021 年 7 月 12 日から 15 日）もオンラインで聴講した。本年度からは国内の企業と社会フォーラム（JFBS）に入会し、第 10 回年次</p>					

大会をオンラインで聴講した。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

「自然エネルギー 100%大学(電力)の実現 - 千葉商科大学が実践する省エネ・創エネ活動 -」、手嶋 進・原科幸彦、『環境科学会誌』第 34 巻 3 号、 pp.162-171、2021 年

【著書・論文（査読なし）】

「千葉商科大学における太陽光発電設備導入事例」、手嶋 進・大杉 仁、『光発電』No.44、 pp.92-98、太陽光発電協会、2021 年

【学会発表等】

「遠隔状況下における SDGs 活動の展開」杉本卓也・手嶋進、環境科学会 2021 年会 企画シンポジウム 1「学生による SDGs 活動の地域での認知拡大と深化」、2021 年 9 月 10 日、オンライン開催

3. 主な経費

当初予定していた地域再エネ事例のサイト訪問のための交通費はコロナの影響でほとんど使用しなかった。その分文献研究に比重をおいたため研究関連経費のほとんどは書籍や論文の購入費用に充てることになった。また、学会の年会費や年次総会の参加費として支出した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

千葉県酒々井町 2050 年脱炭素実現のための再生可能エネルギー導入目標策定委員会にて委員長を務めた（2021 年 10 月 5 日から 2022 年 1 月 20 日）。